

心臓血管・呼吸器外科

1. 概要

(1)心臓外科

常勤心臓外科医がわたくし一人であるため、人工心肺を使った心臓手術を行うことができていません。専門医がいても研修医や他科の医師を集めて無理やり手術を行うことは許されることではありません。そのことは以前にも書かせていただきました。心臓外科常勤医の確保が急務ですが、豊橋という地理的位置や年間の成人心臓手術件数が十数件緊急を入れても三十件前後の病院へ積極的に来てくれるような医師は、なかなかいないのが現実です。誰か一人でも来てくれれば予定手術の再開ができるとの思いで他院からのお誘いをいくつか断り勤めてきました。心臓外傷や血管外傷について院内院外からの患者さんを救命できたこともここに勤めていたかいがあったと思っています。この現状を理解し好意的にご助力いただいた職員の方々にはこの紙面を借りてお礼を申し上げます。

2014年10月には一名常勤が加わります。新たなスタートです。

(部長 中山 雅人)

(2)血管外科

2014年4月から血管外科が標榜されます。科の内容と将来予定をご紹介します。

血管外科が扱う領域は、横隔膜より下の大動脈・四肢の末梢動脈・静脈・等となっています。ただし下肢深部静脈血栓症は、外科的に扱うことが少なくなっているため、当院ではまず循環器内科での対応となっています。疾患としては動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、動脈炎症候群、動脈血栓塞栓症、動静脈瘻、下肢静脈瘤などがその対象です。

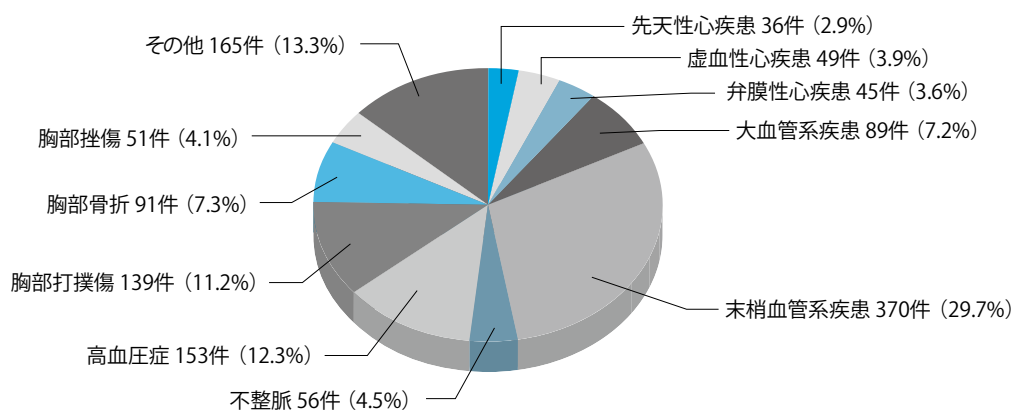
下肢静脈瘤については、2014年9月から高周波焼灼療法による手術を始める予定です。高周波焼灼治療とは、レーザー治療に類似し静脈瘤を高周波で焼灼する手術方法で、2014年7月より保険適応となりました。施設認定が必要となります。日本では、レーザー治療が先に保険承認され認知されていますが、高周波焼灼治療のほうが海外でのシェアは大です。

今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

(部長 中山 雅人)

●疾患別頻度

総件数：1,244件



(3)呼吸器外科

心臓と食道、乳がんを除く胸部疾患を対象としています。主対象の肺癌は死因の第1位で増加の一途をたどっています。ヘビースモーカーの多い団塊の世代が肺癌好発年齢の中心を占め、今後しばらく減少する気配がありません。

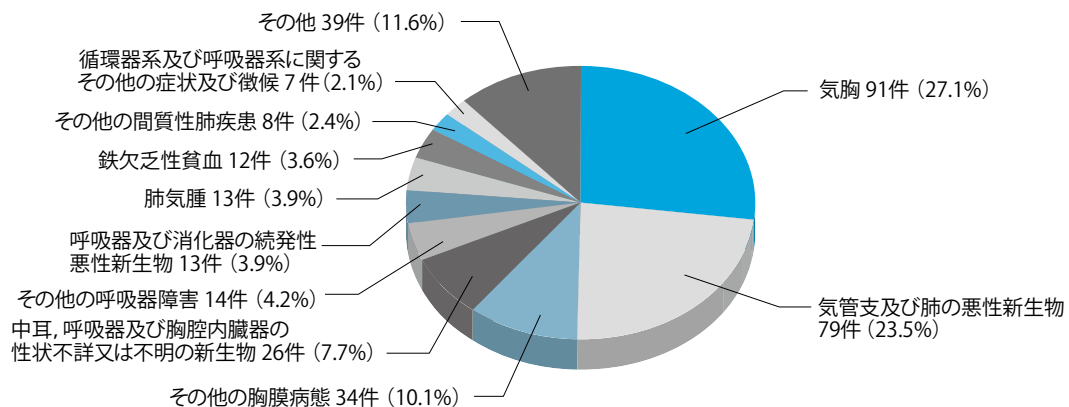
近年では胸腔鏡を用いて開胸創をより小さく、手術浸潤を軽減することで、標準的な肺癌手術でも、手術前日の入院から退院まで5～7日間の治療が可能です。残念ながら、定期健診を受けずに進行癌となつてから来院されるケースもあり、この場合はすでにリンパ節や他臓器に転移していることも多く、再発の危険が増すばかりか抗癌剤投与や放射線治療の追加を要します。早期発見のため、無症状のうちに受ける住民健診等による定期的なスクリーニングが極めて重要です。

毎週定期的に呼吸器内科・放射線科と合同カンファレンスを行つて、個々の症例に関して治療方針を検討しており、各科と共同で治療にあたっています。

(部長 成田 久仁夫)

●疾患別頻度

総件数：336件



学会発表（医局）

<心臓血管呼吸器外科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
①	気腫性肺嚢胞に対するソフト凝固・焼却で術後肺老に難渋した1例	親松 裕典	第24回静岡呼吸器外科医会集団会	2013/1/26
②	上肺野優位の気腫性嚢胞病変を有したレックリングハウゼン病疑いの1例	直海 晃	第35回東三医学会	2013/3/9
3	ステロイド治療中のネフローゼ症候群に合併し、治療に難渋した急性膿胸の1例	直海 晃	第30回日本呼吸器外科学会総会	2013/5/9